# ①思春期・青年期の吃音者の社交不安障害を和らげる親・友達らによるソーシャルサポート
# ②長崎の高齢被爆者の語りにみる健康～Total Painの視点から～

研究分野：医歯薬学（看護学）、社会福祉、地域研究、看護教育

キーワード：吃音、長崎高齢被爆者、がん、慢性的な病い

貢献できるSDGsの区分：

看護栄養学部　看護学科　准教授　吉田　恵理子
教員情報URL　https://sun.ac.jp/researchinfo/eriko/

## 研究概要

**①吃音に関する研究**

吃音者の10人中4人は、コミュニケーション障害から、社交不安障害に陥るとの報告がある。思春期・青年期は進路選択、友人関係の変化など、様々な課題に直面する。コミュニケーションの中心は親から友達に移行するが、「吃音」に関し、親や友達からの支援が、社交不安障害の軽減に役立つのかは明らかでない。年齢に伴う変化が推察される支援を時間軸で捉えたソーシャル・サポートの在り方の解明には至っていないのが現状である。

本研究は、思春期・青年期の吃音者の社交不安障害と親・友達から実際に受けている支援と求める支援との関連を明らかにし、これらを時間軸で整理することで、思春期・青年期吃音者の社交不安障害を和らげる、「思春期・青年期の吃音者へのソーシャル・サポートモデル（案）」の提言を目指す。

**②長崎の高齢被爆者に関する研究**

原爆被爆者の高齢化に伴う証言者の減少による、被爆体験の風化が懸念されている。歴史的に経験したネガティブな体験を残し教訓とすることは、次の世代に残された責務である。また自己のネガティブな体験について語ることは、高齢被爆者にとって、被爆体験からの精神的な回復や人生の整理にもつながる。

そこで本研究では、child　Survivorである長崎の高齢被爆者が、自らが生きた証として次世代に伝えたい、被爆当時のくらし、健康に対する思いを『結言（ゆいごん）』と定義し、長崎原爆高齢被爆者のくらし、健康についての語りをTotal Painの視点で明らかにすることを目的とする。

## 産学連携の可能性（アピールポイント）

①吃音をもつ人・家族への支援に関する教育支援
②地域におけるがん、慢性の病いをもちながら生活する人・家族への教育支援
③長崎高齢被爆者のくらしと健康に関する研究を踏まえた政策提言への示唆

## 外部との連携実績等

①吃音に関する講演会・学習会開催、吃音セルフヘルプグループでの活動
②長崎県看護キャリア支援センター実習指導者講習会講師
③日本赤十字社長崎原爆病院・日本赤十字社長崎原爆諫早病院キャリアラダーⅢ（学生指導）講師
④長崎県糖尿病看護師育成事業委員会　委員
⑤NPO法人　DEPEX-Japan運営委員
⑥NPO法人　ピンクリボンながさき理事
⑦科学研究費　基盤研究（C）（20K02299）

## 関連情報

がんと共に生きる長崎原爆被爆高齢者の健康観，長崎県立大学看護栄養学部紀要，2022